



全国学力・学習状況調査を実施しました

新型コロナウイルス感染症の影響で、2年ぶりとなった全国学力・学習状況調査が、5月27日（木）に行われました。

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に実施されるものです。中学校では3年生を対象に、国語、数学の教科に関する調査とあわせて、生徒質問紙調査が行われました。



国語では、インターネットを使ったテレビ会議での学校間の生徒同士の話し合いや、電子メールを題材に、話し合いの流れを踏まえた発言内容を考えたり、自分の意図を効果的に伝える文章を作成したりする問題が出題されました。

また、数学では、時刻と陰の長さの関係や自作の砂時計での時間の測定、日照時間と気温差の関係など日常生活に関する問題が出題されました。これらの文章題では、いずれも問題文が長く、基本的なことを問う問題であっても、何が問われているのかを理解できないと答えられない問題となっていました。国語も数学も、知識だけでなく、それを実際の生活場面で活用する力を問う問題となっています。

生徒質問紙調査では、子どもたちの生活習慣のほか、昨年の4～5月ごろ、新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期の状況についての質問もありました。

5月28日（金）の朝刊には、今回の学力調査の問題が掲載されています。1、2年生の皆さんも、まだ習っていないところもありますが、ぜひ一度、挑戦してみてください。

学級旗の作成に取り組んでいます

放課後の時間を使って、学級のシンボルとなる学級旗の作成に取り組んでいます。一人一人がアイデアを出し合い、自分たちで考えた言葉やデザインをもとに、下書き、色付けと作業が進んでいます。

出来上がった学級旗の最初のお披露目の場となるのが体育祭です。本年度の体育祭のテーマ「限界突破☆全力疾走～密は作らず、“絆”を作れ～」とともに、学級の応援旗ともなる学級旗が体育祭を盛り上げるアイテムとなることを楽しみにしています。



1年生の作成途中の学級旗です。↑
どんな旗が出来上がるのか楽しみです。

令和3年度の教科書展示会が開催されます

三重県では、県民の皆さんの教科書に対する関心に応え、教科書への信頼を確保するとともに、教科書検定への一層の理解を得るため、教科書展示会を開催しています。本年度、津市内では、2つの会場で開催されますので、機会があればご参加ください。

場所	展示期間・展示時間帯	所在地
三重県総合教育センター	6月11日（金）～6月30日（水） 9:00～17:00 ※土日を除く	津市大谷町12番地
津市教育委員会庁舎3階会議室3	6月15日（火）～7月2日（金） 9:00～17:00 ※土日を除く	津市西丸之内37番8号

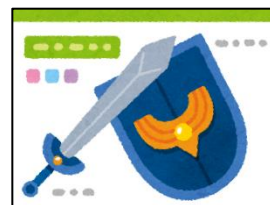
自分自身のビッグアイテムを持とう

始業式、入学式で「一人一人が自分自身のリーダーとなろう」と話したことを覚えていますか？そして実行していますか？

「自分自身のリーダーになる」とは、自分のことを自分で決め、それをやり通す。そんな自分自身のリーダーになるということです。「元気な声であいさつをする」「誰に対しても笑顔で接する」「掃除を自分から進んでやる」「係りの仕事は、自分の仕事だけでなく、ほかの人の仕事も手伝う」「人に優しくする」「絶対にいじめをしない」「困っている人がいたらとにかく声をかける」などなど、自分で決めたことをとにかくやり通す。これが「自分自身のリーダー」としての姿です。

誰にでもできる当たり前のことであっても、それを人よりも一生懸命にすれば、きっとその人は信頼され、気がついたら周りは友達でいっぱいということになると思います。

例えばこれをゲームの世界に置き換えてみると、何か一つでも「自分はこれだ」というアイテムを持っている人は、そのアイテムを使って、難しいステージもクリアし、目標としていたゴールにたどり着くことができます。



皆さんは、中学生というステージで、どんなアイテムをいくつゲットできるでしょうか？勉強？部活？学級活動？行事？生徒会？挨拶？掃除？係の仕事？優しさ？公正さ？得意なことを伸ばしてビッグアイテムにするのもよいですし、得意なことがないという人も、「当たり前のことを、人よりも一生懸命にしよう」とすれば、それもきっと特別なビッグアイテムとなるでしょう。

今を境に、改めて自分のことをしっかり見つめ、考え、行動することで、いろんなアイテムが見えてきます。自分自身のリーダーとしての行動が、自分を成長させ、学級や学校を変えていく大きな力となります。まだまだ1年は長いです。皆さんのやる気、行動力に期待しています。

新聞記事から考える

「中日春秋」では、様々な偉業を成し遂げた人の訃報に際し、コラム記事が掲載されることがあります。5月30日は、「はらぺこあおむし」の作家であるエリック・カールさんに関わるものでした。皆さんの中にも、小さいころに読んでもらったという人がいると思います。我が家にはなぜか同じ本が2冊もありました。改めて手に取って見てみると、素敵なお色遣いや、あおむしが食べた穴の開いたページなど、子どもが小さかった頃が懐かしく感じられました。ただ、コラム記事の書き出しは、「ナチスドイツは、、、」とあり、彼の作品からは想像できないものでした。日本でも戦争体験者が急速に減少し、戦争が「記憶」から「歴史」へと変わりつつあります。一方、世界では「軍事クーデター」「空爆」といった事態が発生しており、情報や通信、経済活動など国



中日春秋
ナチスドイツは印象派以降の近代絵画を退廃的だとして弾圧を加えた。勇気ある美術教師がいた。ナチスの芸術政策を無視し、自宅に子どもたちを招き、クレイ、マシ、ピカソの作品をひそかに見せていたそうだ▼その一人だった十二歳の少年は先生の見せる作品に夢中になった。とりわけ気に入ったのはフランツ・マルクの「青い馬」だった。ヒトラーが「青い馬などいなし」と嫌った作品である▼少年は第二次世界大戦後、米国で暮らし、イラストレーターとしての道を歩み始める。世界的ベストセラー絵本、『はらぺこあおむし』（一九六九年）などの絵本作家エリック・カールさんが亡くなった。九十一歳▼『はらぺこあおむし』は現在六十二の言語に訳され、総発行部数は四千八百万部にも及ぶ。あおむしがリンゴやナシ、スモモを次々に食べては大きくなり、ついには美しいチヨウとなる。鮮やかな色彩とあおむしがかじった穴のおもしろさが世界中の子どもの心をとらえた▼灰色、黒、暗い緑色は戦争中のカムフラージュ（擬態）を連想させ、苦手だったそう。あおむしから生まれ変わったチヨウが帯びた自由で、生き生きとした色。その理由が少し分かった気がする▼みんな、チヨウになれるよ。あれは希望の物語なのだと語っていた。世界の子どもに大きなお土産を残して、チヨウが大空に向かっていった。
2021.5.30

と国とのつながりが深まる中、また、世界的なウイルスとの闘が続く中、日本として何ができるのか、私たち一人一人に何ができるのか、何を大切にしていかなければならないのかということが問われているようにも思います。エリックさんからは、世界中の子どもたちへ、成長すること、大人になることへの希望や期待というお土産とともに、私たちに対し、希望や期待に満ちた社会を実現するという宿題が残されたようにも思います。

南が丘中学校HPへ→

